

暖かーい心

精神科病棟での実習3日目、70歳代のA氏は入院してこられた。指導者からは「A氏は入院してきてすぐだからあまり関わらないように。」と言われていた。翌日の昼食準備時、私は車いすを使用中の患者のお茶を入れていた。するとA氏が少し離れた場所から「水入れてくれん。」と私の方を見て言った。私はA氏が自分で歩けることを知っており、また指導者から距離を保つよう言われていたためA氏の方を見て大きな声で「すぐ看護師に伝えるのでちょっと待ってくださいね。」と言った。しかしA氏に聞こえなかったのか、何度も同じ言葉を繰り返した後「何回も言うとするのに知らんふりして。五体満足のかせに。」と大声で言いながら私に近付いてきた。私は正直怖いと感じ、その場から動けなかった。看護師が間に入ってくださり、私はA氏から姿が見えない場所へと移動し、その日はその後自己学習を行った。

次の週、病棟へ行くのが怖かった。実際その後も何日かに一回「椅子がぐちゃぐちゃ。」「髪の毛が落ちている。」など怒って私に言うことがあり、なぜ私なのだろうと思っていた。ある日指導者が、A氏に私が実習生であることを改めて紹介してくださった。A氏は私の顔を見て「よろしくね。」と笑った。その日の午後、ソファでテレビを見ていたA氏は私に「ちょっとこっち来て。ここ座りんか。」と機嫌よく手招きした。私はまだ少し恐怖心があったが、何か話したいことがあるのだと感じ座って話をすることにした。A氏は今まで、3人の子供を育てるために新聞配達、家事、宅急便の仕事をしてきたこと、加えて両親の介護も献身的に行っていたことなどを教えてくださった。私は、「今まで大変だったんですね。すごいです。」と素直な思いを口にした。続けてA氏は、一般科の患者は手術すれば治るが、精神科は違うと言い、「冷たい心はあかん、暖かーい心で話聞いたってな。」と穏やかな笑顔で言われた。私は「まだ学生で至らない点も多いので、もっと人生の勉強をして、暖かーい心で話を聞きたいと思います。」と伝えた。するとA氏は「いいや、あなたが暖かーい心やからこんな話したんよ、ありがとうね。」と言ってくださった。その日からA氏は笑顔で私に話しかけてくださるようになった。実習最終日には私の姿を見ると「だーいすきな人が来た。」と笑顔で抱きしめてくださった。泣きそうな顔で「ありがとうね。寂しいなあ。ほんまにありがとうね。」と言ってくださり、私はA氏と固く握手をした。実習後、指導者から「A氏は、学生さんを褒めていました。頑張ってるほしい、娘のように思っていると話していました。」と教えていただいた。

私はこれから看護師として様々な患者と関わらせていただく。どんな時でもA氏から学んだ『暖かーい心で話を聞くこと』を大切に、その人が本当の思いを表出できる相手となれるよう人として日々成長していきたい。